





開催協議会名	令和7年 第3回 津和野警察署協議会		
開催日時	令和7年9月18日（木）午後2時00分から午後3時30分まで		
出席者	協議会委員	4人	
	警察署	6人（署長、副署長、生刑課長、交通課長、警備課長、総務係長）	
会議・協議	署長からの 諮問	諮問事項	詐欺被害を防止するためにはどのような活動が重要か
		説明概要	1 特殊詐欺の被害 2 特殊詐欺の主な手口（令和6年中） （1）架空料金詐欺 （2）オレオレ詐欺 （3）還付金詐欺 （4）融資保証金詐欺 3 特殊詐欺の手口は毎年変化する （1）LINEを悪用 （2）副業名目の架空料金詐欺 4 犯人が使う電話番号 （1）「+」は国際電話 （2）050はIP電話 5 詐欺にだまされないためには 電子マネーの被害防止対策
		答申(意見等)	1 高校生になると、ほとんどがスマートフォンを使用し、Instagram、LINE等のSNSをコミュニケーションツールにするようになる。SNSの危険性について親にも伝える必要がある。 保護者会等を通じて、親にも指導が必要と感じる。 【警察】 警察の指導の下に、危険性のあるアプリを使用できないよう学校から生徒、保護者に指導するよう依頼する。
			2 詐欺の被害について、地域の防災無線から

	<p>鹿足郡内の被害状況が広報されることがあるが、防災無線の方が身近な情報として捉えやすく、危機感を感じることから効果的である。また、実際の詐欺の手口を説明してもらえると被害に遭いにくいと感じる。</p> <p>【警察】</p> <p>今後も被害状況を継続して広報していくとともに、詐欺の手口は進化していくことから具体的な手口について説明していきたい。</p>
諮問事項	交通事故抑止に向けた取締り方策
説明概要	<p>1 津和野警察署における取締り方策</p> <p>(1) 運転者に周知されていない新たな場所で行う。</p> <p>(2) 取締り要望のある路線で行う。</p> <p>(3) 人目につくため、取締り回数を増やす。</p> <p>以上の方策で、運転者に緊張感を与える。</p> <p>2 津和野警察署管内の現状</p> <p>令和7年8月末の人身交通事故総数5件</p> <p>(1) 重点路線の国道9号1件、国道187号1件の計2件発生</p> <p>(2) 上記2件の態様は正面衝突1件、出会い頭1件</p>
答申(意見等)	<p>1 交通取締り方策として取締り箇所が多くなったのは運転手に緊張感を与えることとなり、非常に効果的だと感じる。</p> <p>2 交通取締りをされているのもよく見るが、国道等の幹線道路をパトカーが赤灯を回転し走行しているのをよく見るようになった。</p> <p>運転手として取締り箇所で警察官を見ると同様、緊張感を感じ交通事故防止に努めるようになったと感じる。</p> <p>3 パトカーの姿を見ることは、交通事故防止だけでなく防犯対策上も有効に感じる。</p> <p>【警察】</p> <p>今後も多くの箇所で取締りを継続するととも</p>

		に、パトカーのレッド走行についても継続して行っていく。
	委員からの意見・提言	<p>樹木が成長して枝葉によりカーブミラーが隠れてしまっている箇所がある。</p> <p>【警察】 道路管理者と連携して対応する。</p>
視 察	実戦的総合訓練の視察（自転車運転手の酒気帯び運転）	
委員からの感想	<p>1 自転車運転手の酒気帯び運転について、昨年から道路交通法で罰則化されたことの認識がなかった。今後も継続して広報し、自転車の酒気帯び運転が道路交通法違反であることを周知してもらいたい。</p> <p>2 以前は、自動車を運転すれば飲酒運転となるが、自転車は大丈夫との認識だったが、自転車も車両なので飲酒運転であることを理解した。実際に島根県内でも自転車の飲酒運転が多く検挙されていることを知り、今後は認識を改める必要がある。</p> <p>3 自転車も自動車と同様、貸したり、飲酒機会を与えたり、同乗するなどにより罰則があることが分かり、いずれも飲酒運転であることが分かった。</p>	
写 真	<div>  <p>【会長挨拶】</p> </div> <div>  <p>【署長挨拶】</p> </div> <div>  <p>【生活安全刑事長説明】</p> </div> <div>  <p>【交通課長説明】</p> </div>	



【意見交換】



【視察状況】